

1. 魚介類調査結果

1. 魚介類調査

1.1 魚介類調査結果の概要

(1) 分布状況からみた河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 38 水系 43 河川で確認された魚類は 18 目 66 科 274 種、エビ・カニ・貝類は 16 目 63 科 174 種でした。

魚類の確認種数が多かった一級河川は、関東地方の荒川の 74 種でした。二級河川では、九州地方の役勝川の 67 種でした。

エビ・カニ・貝類の確認種数が多かった一級河川は、九州地方の川内川の 53 種、番匠川の 47 種、白川の 41 種でした。二級河川では、九州地方の役勝川の 66 種でした。

(2) 特定種一覧

今回とりまとめを行った 43 河川で確認された特定種は、魚類では天然記念物に指定されているネコギギヤや絶滅危惧 IA 類に指定されているニッポンバラタナゴ等 37 種、エビ・カニ・貝類ではレッドリスト絶滅危惧 II 類に指定されているカワシンジュガイ等 14 種でした。

魚類の特定種の確認種数が最も多かった河川は、九州地方の嘉瀬川の 10 種、次いで関東地方の荒川、中部地方の豊川や中国地方の江の川の 7 種でした。

エビ・カニ・貝類の特定種の確認種数が多かった河川は、中国地方の江の川の 5 種、次いで東北地方の鳴瀬川、九州地方の川内川の 3 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」掲載種(2003：魚類)
- 環境省(庁)編「レッドリスト」掲載種(2000：無脊椎動物および陸淡水貝類)

(3) 外来種一覧

今回とりまとめを行った 43 河川で確認された外来種は、魚類ではニジマス、オオクチバス(ブラックバス)、ブルーギル等 14 種、エビ・カニ・貝類ではスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)、サカマキガイ、ムラサキイガイ、アメリカザリガニ等 12 種でした。

今回とりまとめを行った 43 河川のうち、魚類の外来種の確認種数が最も多かった河川は、関東地方の荒川の 10 種、次に関東地方の利根川水系江戸川及び中川・綾瀬川の 7 種でしたが、8 河川では全く外来種が確認されませんでした。地方別では、北海道地方と北陸地方で 1 種と最も少なく、関東地方で 12 種と最も多く確認されました。

エビ・カニ・貝類の外来種の確認種数が多かった河川は、関東地方の荒川の 6 種、利根川水系江戸川の 4 種でした。一方、北海道地方の渚滑川、常呂川、鶉川など、外来種の確認されなかった河川は 8 河川ありました。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26~27 ページ)および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。